

報道関係各位

2011年12月8日

森ビル株式会社

「新橋・虎ノ門・六本木地域の都市再開発」 2011年社団法人都市住宅学会賞業績賞(20周年記念表彰)受賞

森ビル株式会社が推進する新橋・虎ノ門・六本木地域における都市再開発が、この度、2011年社団法人 都市住宅学会賞・業績賞(20周年記念表彰)(主催:社団法人 都市住宅学会)を受賞いたしました。(※事業内容等は次頁以後)

「新橋・虎ノ門・六本木地域における都市再開発」

都市住宅学会賞業績賞 受賞理由

森ビル株式会社では、アークヒルズ(1986年)、愛宕グリーンヒルズ(2001年)、六本木ヒルズ(2003年)など、東京都港区の新橋から虎ノ門、六本木の地域を中心として、**立体緑園都市(Vertical Garden City)という統一コンセプト**の下、面的な大規模複合再開発を25年の長期間にわたって継続して実施してきており、更に現在も複数の再開発事業を展開中である。ここでは、**都市のコンパクト化、都市緑化、文化・芸術によるまちづくりなど、先駆的な都市更新手法**が実現されている。また開発して終わりではなく、その後の**タウンマネジメント**を入念に行い、質の維持に努めている。更に開発地は周囲までを含めた避難場所として機能するよう整備し、**密集市街地が残る地域に対する責任**をも果たしている。経済採算性から言えばオフィスに偏りがちな地域においても職住近接を実現し、着実な住宅供給を続け、地権者を除き基本的に賃貸(オフィス、住宅)とすることで管理の永続性を担保しており、**まち全体の将来を考えた事業手法**は極めて堅実である。賃貸住宅は利便性、安全性等、住宅の**グレード全てが国際的に通用するレベル**に仕上げられており、**今後の都市居住の目標像**ともなり得る。以上の点から、都市住宅学会業績賞の20周年記念表彰に相応しい事業として評価される。

森ビルとしては今後もさらにこのコンセプトを進化させ、同地域の都市再生を推進し、エリアとしての魅力向上とともに、国際戦略都心としての東京の競争力向上に取り組んでまいります。

※「社団法人 都市住宅学会賞・業績賞」

社団法人都市住宅学会では、2006年より都市住宅学、都市住宅計画・事業、都市住宅政策等に関する優れた業績を、「社団法人都市住宅学会賞・業績賞」として表彰。2011年度は、従来までと同様の単体事業に加えて、都市住宅学会20周年記念事業として、統一的なコンセプトに基づいて実施された複数事業の集合体である都市住宅学、都市住宅計画・事業、都市住宅政策等に関する優れた業績も対象に選考・表彰。

(主催:社団法人都市住宅学会) <http://www.uhs.gr.jp/>

【本件に関するお問合せ先】

森ビル株式会社 広報室 史・竹内

TEL : 03-6406-6606

FAX : 03-6406-9306

E-mail : koho@mori.co.jp

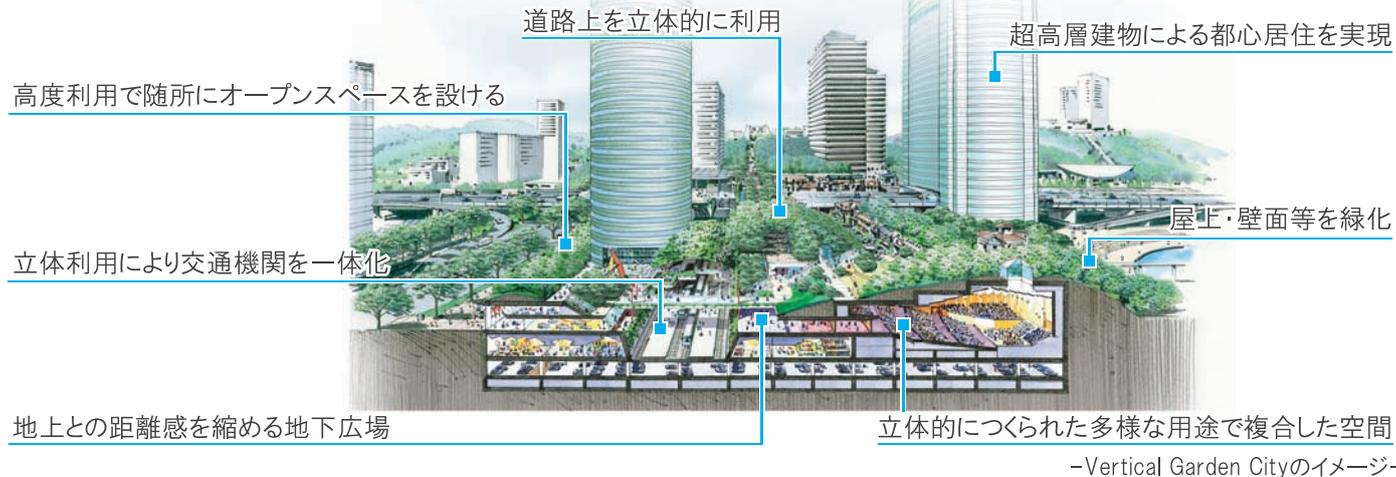
新橋・虎ノ門・六本木地域の都市再開発

森ビルでは、東京都港区の新橋・虎ノ門・六本木地域を中心に、“Vertical Garden City”（立体緑園都市）という統一的概念のもと、アークヒルズ、愛宕グリーンヒルズ、六本木ヒルズをはじめとする数多くの都市再開発によって高度複合利用を推進するとともに、「安全・安心」「環境と緑」「文化・芸術」という3つのミッションを掲げ、災害時に逃げ込める街、自然との共生をはかる都市、新しい創造力と可能性を育む都市の実現に取り組んできました。



Vertical Garden City

“Vertical Garden City”は平面過密の現在の街を高層化、地下利用することで、地上を人と緑に解放します。これまでの都市が抱えてきた課題の解決を実現してきました。



-Vertical Garden Cityのイメージ-

都市再開発における3つのミッション



安全・安心

六本木ヒルズ防災訓練の様子



環境と緑

アークヒルズ屋上庭園



文化・芸術

六本木ヒルズでのパフォーマンスアート

「逃げ出す街」から「逃げ込める街」へ
大規模再開発を通して、開発地域のみならず周辺地域にも貢献する防災拠点を目指しています。
オープンスペースや都市基盤の整備をはじめ、ハード&ソフトの両面から安心・安全を実現しています。

自然との共生をはかる都市
都市づくりとその運営を通して、“都市と自然との共生”、“都市の低炭素化”、“資源循環”を推進しています。

新しい創造力と可能性を育む都市
音楽ホールや美術館など豊富な文化施設を整備するとともに、イベントやメディアを通じた文化の発信によって、経済活動を支えるだけでなく、文化的な魅力や豊かな環境を備えた都市を創造しています。

プロジェクト実績

アークヒルズ(1986)



24時間複合都市 森ビル都市づくりの原点

区域面積: 約6ha

用途: オフィス・住宅・商業・ホテル・コンサートホール・スタジオ・集会所

- ・民間による日本初の大規模市街地再開発事業。
- ・“Vertical Garden City”のコンセプトを具現化した原点。
- ・完成当時から外資系金融機関が多く入居し、国際金融センターの先駆けに。
- ・桜並木や屋上庭園などで、20年にわたって「都市の生態系」を育成。ヒートアイランド現象の緩和や都市緑化を通じたコミュニティ活動により地域に貢献。
- ・朝市・夏祭りなど、アークカラヤン広場でのイベントで地域交流を活性化。

愛宕グリーンヒルズ(2001)



緑と歴史と共存する空に伸びる街

総敷地面積: 約4ha

用途: オフィス・住宅・商業・寺院

- ・建物の集約によって、ペンシルビルに隠れていた愛宕山の景観を街に開くとともに、周辺の自然、伝統、文化と一体となった広大なオープンスペースを創出。
- ・愛宕山の既存樹木を保全し、空地の50%を緑化。
- ・オフィスと住宅のツインタワーが、青松寺・NHK放送文化博物館などの文化施設と共存。
- ・世界的な建築家シーザー・ペリ氏が設計したシンボリックな外観。

六本木ヒルズ(2003)



Artelligent City “open-mind”な人をはぐくむ街

区域面積: 約12ha

用途: オフィス・住宅・商業・ホテル・美術館・映画館・スタジオ・学校・寺院

- ・民間としては国内最大規模の再開発事業で、年間約4,000万人が訪れる。
- ・森美術館・展望台・アカデミーヒルズ・六本木ヒルズクラブや、TV局、FM局、映画館、パブリックアートなどにより、職住近接にとどまらず創造的な文化都心を形成。
- ・毛利庭園・屋上庭園など豊かな都心の緑を整備・育成。
- ・環状3号線と六本木通りの平面接続や、東西の地区幹線道路(けやき坂)の整備、地下鉄六本木駅との直通接続などで広域交通に貢献。
- ・特定電気事業による自家発電などにより、災害時にも安心して逃げ込める街を実現。

建設中のプロジェクト

虎ノ門・六本木地区プロジェクト

(2012年8月完了予定)



豊かに住み、働く、「緑の生活都心」

区域面積: 約2ha

用途: オフィス・住宅・商業

- ・「緑の生活都心」をコンセプトに、居住機能と商業・業務機能等が高次に複合した国際性・文化性の豊かな良好で魅力ある街づくりを目指す。
- ・計画地内には約4,000㎡の広場を新設整備し、生物多様性に配慮した地域本来の自然の姿を再生する取り組みにより、JHEP認証にて、国内初の最高ランク「AAA」を取得。
- ・高効率照明や蓄熱式空調システムなどにより、国の示す基準値に比べ、約37%(※)のCO₂削減を達成。 ※建物の省エネルギー性能を示すERR値
- ・建築物の環境性能で評価し格付けする手法であるCASBEEにおいて、最高評価となる「Sランク(★★★★★)」の公式認証を取得。

環状2号線Ⅲ街区プロジェクト

(2014年度完了予定)



シンボルストリートとともに誕生する新たな東京のランドマーク

区域面積: 約2ha

用途: オフィス・住宅・商業・ホテル・カンファレンス

- ・虎ノ門から新橋を結び、東京の新たなシンボルストリートとなる「環状2号線」の再開発計画。森ビルは東京都より指定を受けた「特定建築者」として参画。
- ・「立体道路制度」の活用により建築物の中を環状2号線が貫通した、交通インフラと一体となった計画。
- ・大規模なオープンスペースを創出、土地利用や都市機能の向上のほか、新たに文化、交流機能の導入を図り、国際交流や観光都市の推進に貢献。
- ・省CO₂技術を網羅、クラウド技術を用いて周辺街区に省CO₂対策を促すなど先進的な取り組みが評価され、平成22年度「省CO₂先導事業」に認定。